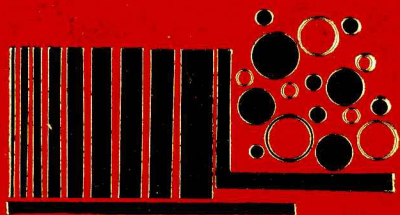


年刊現代詩集

'85下半期



芸風書院

△あとがき▽

年刊現代詩集77は、全国各地の詩誌から推薦された現代詩の年刊アンソロジーとして日本で最初のものでした。以来9年、今回が15冊目になります。その間、「昭和詩の万葉」にふさわしい普遍性と将来性のある作品を求め続けてきました。掲載された作品は、すでに五〇〇〇篇に達しています。

『私達は今後、現代詩というせまいジャンルではなく、現代を真摯に生きる人達の現在の詩という広い意味で、この年刊現代詩集を刊行していきたいと思っております。』

『既成の詩壇ジャーナリズムに左右されずに秀れた作品を生み出している詩人は、全国に数多くおられます。そういう詩人を一人でも多く紹介していくのも私達の仕事です。』

今後とも一層のご支援をお願いいたします。

年刊現代詩集編集委員会

年刊現代詩集 '85 (下)

1985年12月20日 発行

¥ 3,000

編 者 年刊現代詩集編集委員会

発行者 萩 原 廸 夫

発行所 (株) 芸 風 書 院

年刊現代詩集編集委員会

東京都文京区本郷 1-15-4 文京尚学ビル

電 話 (03) 814-9591 (代)

振 替 東 京 0-47841

表紙デザイン・さえきまこと レイアウト・伊奈克平

印刷・●上野印刷所

年刊現代詩集'85(下)

—全國主要詩誌代表詩人集—

芸 風 書 院

年刊現代詩集新人賞

受賞作品及び受賞者

第一回新人賞

入選

「人魚」(年刊77所載)

山本美代子

神戸市。「日本詩人クラブ」「地球」「たろす」所属。

「河太郎文」(年刊78所載)

廣岡昌子

交野市。「大阪現代詩人会」「交野詩話会」所属。

佳作

「嘔吐」(年刊77所載)

小松弘愛

高知市。「日本詩人クラブ」「兆」所属。

「風」(年刊78所載)

木下幸江

西宮市。

「ゼロの季節」(年刊77所載)

高橋和子

神奈川県山北町。「作家社」所属。

第二回新人賞

入選

「女犯不動」(年刊80上半期所載)

打田早苗

山形市。「東北詩人」所属。

「噂の耳」(年刊80上半期所載)

鈴木豊志夫

千葉市。「千葉現代詩人会」「光芒」所属。

「月と魚と女たち」(年刊79所載)

中野博子

大阪府。文芸誌「作家」所属。

佳作「鳥」(年刊80上半期所載)

小松弘愛

高知市。「日本詩人クラブ」「兆」所属。

「ひがん花幻想」(年刊79所載)

鈴木操

前橋市。「芸象文学会」所属。

「不良志願」(年刊80上半期所載)

掛布知伸

名古屋市。「市民詩集の会」所属。

「私の夏は」(年刊79所載)

たかとう匡子

神戸市。「大阪現代詩人会」「第三紀層

「むとす」所属。

第三回新人賞

入選 「詩人偽証」(年刊81下半期所載)

そらやまたろう

宇都宮市。「栃木県詩人協会」「橋」所屬。

「蜘蛛の糸」(年刊81下半期所載)

楓さわ子

福島市。「地球」「あぶくま詩の会」「北斗の会」所屬。

佳作 「裏町どしらそふぁみれど」(年刊81上半期所

載)

掛布知伸

名古屋市。「市民詩集の会」所屬。

「水域から」(年刊81上半期所載)

岩佐なを

横浜市。「地球」「射撃祭」所屬。

「アクリル」(年刊81上半期所載)

紫圭子

愛知県鳳来町。「孔雀船」「原始林」所屬。

「ほたる火」(年刊81上半期所載)

原桐子

常陸太田市。「日本詩人クラブ」「白亜紀」

「翼」所屬。

「沈黙」(年刊81下半期所載)

若林光江

栃木県南河内町。「日本詩人クラブ」所屬。

第四回新人賞

入選 「ストーン・サークル」(年刊82上半期所載)

紫圭子

新城市。「孔雀船」「原始林」所屬。

佳作 「ぶち猫のドジ幽閉の五日間」(年刊82下半期

所載)

えぬ・まさたか

兵庫県社町。「火皿」所屬。

「サンクチュアリー聖域」(年刊82上半期所載)

坂本登美

福岡市。「汎芸神」所屬。

「飛行論」(年刊82上半期所載)

綾部健二

宇都宮市。「橋」「地球」所属。

「落花」(年刊82下半期所載)

神崎嶺

宮城県柴田町。「像」所属。

「あなたと私の穴について」(年刊82上半期所載)

載)

渡辺真理子

船橋市。「光芒」所属。

「仮構の部屋」(年刊82下半期所載)

山田隆昭

東京江東区。「地平線」「風」所属。

第五回新人賞

入選 「ザリガニ飼う後めたさは」(年刊83上半期所載)

渡辺真理子

船橋市。「光芒」所属。

「鬼を言う」(年刊83上半期所載)

山田隆昭

佳作

東京都江東区。「地平線」「風」所属。

「少年マサ鬼面に会う」(年刊83上半期所載)

えぬ・まさたか

兵庫県社町。「火皿」所属。

「夢景」(年刊83下半期所載)

渡辺卓爾

厚木市。「直立猿人」所属。

「そんな時が……」(年刊83下半期所載)

富沢宏子

東京都足立区。「青い花」「現代詩研究」所

属。

「棒を捨てた男の話」(年刊83下半期所載)

川島洋

千葉市。「光芒」同人。

「しご」(年刊83上半期所載)

川口泰子

川口市。「地平線」所属。

第六回新人賞

入選 「黙示録」(年刊84上半期所載)

神庭泰

佐倉市。「芸象」所屬。

「階」(年刊84下半年期所載)

鈴木操

前橋市。「芸象」所屬。

佳作

「漁火」(年刊84下半年期所載)

渡辺洋

諏訪市。「市民詩集の会」所屬。

「子供たちの夜の祭り」(年刊84下半年期所載)

波多野マリコ

伊勢原市。「作家」所屬。

「利休」(年刊84上半年期所載)

宇野雅詮

水戸市。「白亜紀」所屬。

「葬年式」(年刊84上半年期所載)

矢代勉彦

富士見市。「地平線」所屬。

「秩父行」(年刊84上半年期所載)

天路悠一郎

東京都練馬区。「四海」所屬。

年刊現代詩集86上半年要項

一、資格

各文芸団体、同人誌に所屬し、その主宰の推薦する方か、当年刊現代詩集編集委員会が推薦された方。

一、作品

昭和六十年八月一日から六十年十二月三十一日迄に作られたもの。原稿の長さは原則として一編四〇〇字詰用紙四枚以内。

一、締切
一、その他

(イ) 昭和六十一年一月三十一日(消印有効) 名称「年刊現代詩集86上半年期」

(ロ) 体裁 B6判 約三〇〇頁

(ハ) 予価 三,〇〇〇円、発行六月二十日

(ニ) 推薦された作品掲載を承諾された方は出版資金の一部として三冊以上の購入申込みをお願いします。

(ホ) (著者割引一冊 二,六〇〇円 梱包送料実費)

(ケ) 掲載された作品は第八回年刊現代詩集新人賞(入選・賞状及び賞金

総額二〇万円、奨励賞・賞状及び記念品)の対象となります。

年刊現代詩集 '85
(下) 目次

ミカ書ハ農民V

八乃太郎

水上

早春岬

霧ヶ峰

毛についての内的考察

季節

黒髪

もう いいかい

切る

蓮華

椿咲く島の港

ファンタジア

飢餓

牙城

花びら

春陽美術展への誘い

すいば

△午前三時の残骸V

ある日 ある時

便所掃除の歌

メルヘン

草原

母の涙

尊きは人の命

れたりんぐ

泣きボクロ

魔の呼ぶ声は空にあり

旅に出て

岩船観音幻想行

散策の道

生きるに

心の泉から生まれ出る愛

朱い月

残像

たいせつなくだ

氷河の峰々

石川まさじ…40

石村 柳三…42

石川三恵子…46

泉野 作雄…47

岩田 小筆…48

磐城 葦彦…50

上岡 忠道…52

上野 袖子…54

ウカイヒロシ…56

江田恵美子…57

えぬ・まさたか…58

江知 柿美…60

榎本 了…62

大池 満…64

大國キヨ子…65

尾崎 郁夫…66

大久保紀次…68

大空 みち…70

大谷 従二…72

大重 辰雄…74

証人

恩師草

卒業式

冬の蝶を放つ

新世紀の朝

脚雄

尾っぽ考

花が散る

鮭

いつも自由に飛べるものなら

白いソースを使ったサラダ

空蟬

放っちゃれ

遊歩道

或る日 私は…

山腹に棲む巨大な魚

大阪の空にむかって

男たち

おのれに帰る

私はすぎていく

大貫 喜也…75

大越 龍栄…76

大橋三千代…77

大広 行雄…78

大道 照代…79

大和田 恭…80

岡田 悦哉…81

岡本 守三…82

奥 重機…83

大野理維子…84

岡田 武雄…86

賀川 幸夫…88

加藤 文男…90

笠間 茂夫…92

風野 蒼忘…93

香山 雅代…94

貝原 昭…96

掛布 知伸…98

笠原 昇…100

勝又 利賢…102

線を折り 面を折る

七月

青光

九十九里の浜で腕木のない電柱と破船金子

帰去来考

絵模様

兆し

蛸

花の手錠

朝のへたな比喻

尼僧

黙示録VI

草庵春景

眩しすぎる空

回帰

夏閑話

梅雨

旅に出る朝

透き通る歳月

野生(3)

片山 操子…104

片桐 啓志…105

金子 利晃…107

川井 照司…110

紙谷美智子…112

川口 泰子…113

河井 博信…114

河上 鴨…115

川島 洋…116

川村 洋一…118

神庭 泰…119

木村徳兵衛…122

木村 雅美…123

京極 常徳…124

くろこようこ…126

工藤 優子…128

久保田秀子…130

草薙 定…132

倉橋 良子…133

象形文字

野生

陽炎の中に虚像が

奥の鉄道バビロン再訪

日本敗戦こそ農民の勝利

ふところ

光追ひ

覚えていますか

コトバの周辺

化野

哀しみが：

昭和殿の肖像

霊柩車にあなたは乗ってはいけない

ボクの山と彷徨

葬列

夕景

朝の光の中で

靴を買う

聖獣墓地

ヘッドライトの焼酎

梶瀬 利子…134

黒川 明子…136

黒木 松男…138

黒羽 英二…140

倉持 伊平…142

小林 きく…143

小林 貞秋…144

小林 尹夫…146

小林 実…148

小松 流螢…149

小丸由紀子…150

湖西 飛鳥…152

こんどうこう…154

小山 透…156

斉藤 均…157

佐野 三津…158

嵯峨 潤三…160

坂内のお子…162

坂本 登美…163

沢 孝子…164

詩心

頂点圏内で逆立ちする動物

泪

不思議 ね?!

追想

馬喰者の話

女湯

女の涙

バラとナイフとパナッシェ

無限の中

育て観音

かごめかごめ

盲いてあなたは無限を視た

テッセン花

雪待ち

一乗谷朝倉氏遺跡

善の凸凹地蔵

海

激動の日々

夕方の女達

寒川 靖子…166

下山 榮治…167

島 夏樹…168

庄司のり子…170

白石 羊子…172

鈴木 素直…174

鈴木美枝子…176

杉山 杜雄…178

鈴木 孝…180

下村 光枝…182

曾谷 道子…183

宗谷 真爾…184

莊原 照子…186

静川 あや…187

たなかけんじ…188

田中規久雄…190

田中 理助…192

田村 正樹…194

高島 正好…196

田中 聖子…198

続小犬物語

二人

白夜

桜

女

大きな自然の中の小さな少女よ

子守うたのように

白い魚の思い出

木片夢想

ダイジョウブカ!

焼石岳

レオナルドにとって

ある自伝

ひめます

命のプレリユード

花群れにいて

夢……さようなら

背中を流れる川

傾倒

八百屋さんの店先で

多田陽太郎……199

田村 旭……202

高杉 健一……203

高野 邦夫……205

高橋 享子……208

高橋 國雄……210

高橋 久子……212

高橋 みよ子……214

高橋 和子……216

高山 悦子……217

竹内稲三郎……218

立川 千年……220

谷口 謙……222

地引 貧……224

館 利恵……225

千葉 龍……228

司 真……230

富沢 宏子……232

豊田 大明……234

得居 俊子……235

伎芸天に捧ぐ

魔術

乾いた季節

旅程

禪同盟

休日

社会病理

記憶と喪失

曼珠沙華恋歌

裏通り

部屋

ハレー大彗星

淋しさの林

男

未来

イネミズゾウムシ

椿山荘の夕べ

よこたわる時

噺祭りの幻

くも

奈伎 京子……236

内藤 道雄……237

中内 治子……238

中野朱玖子……239

中村 吾郎……240

中村 洋子……242

永井 君子……244

永井 正春……246

中原眞理夫……248

永岡 利子……249

長久保鐘多……250

永山 富士……252

南家 久光……254

中原 忍冬……255

西 一峰……255

根本 昌幸……257

野村 道子……258

野谷 真治……259

野島真一郎……260

長谷部俊一郎……262

バラ哀歌	橋本日出子…	263	アーリントン墓地	松下のりを…	290
少女が海を空屋に運びつつづけている	波多野マリコ…	264	明日の平和	松永みやお…	291
瞬息	原山 林…	266	相馬野馬追祭 祭馬鹿	みうらひろこ…	292
捨て女の里	日置百合子…	268	何もしない日	三浦 玲子…	294
寂寥の日々	東山 円照…	269	鳩笛	三浦 由喜…	293
飛翔する鯨よ	匹見 太郎…	270	姿勢論	三方 克…	297
闇	福田 操恵…	271	夕景	美村 幹…	298
葡萄月(抄)	福澤 公伯…	272	沖縄よ	深山 鏡子…	299
秋の沼	福島みね子…	274	飴色の動物たちとお雛さま	水野ひかる…	300
秋	藤波 透…	276	雪多き春のコレスポンダンス	瑞田 任…	302
秋刀魚	藤 外美子…	277	み影堂の鳩	水越 文代…	304
稚きものの歌Ⅲ	藤澤 弘芳…	278	みごもる	宮田久美子…	305
儀式	藤原 賢一…	279	隅田川	宮田 滋子…	306
報道特別番組	藤岡 正幸…	280	夢	武藤 重勝…	308
真昼間、私は	本郷 和枝…	282	よく見ると	村上 周司…	309
女	増田良太郎…	283	幽界より	宗像 政喜…	310
ドン・ジュアン礼賛	榎 さわ子…	284	幻想曲夢	女川 麗…	312
引詰めめの女	丸山 君子…	285	梅雨前線	森下 榮子…	314
かけら	松井 博文…	286	トイレ タイム	森田 省子…	316
アフリカ論	松本 一哉…	288	舞	山崎 昇…	317

乙女の月
黎明に見上げる空は
哀しい食卓
梅雨のころ
無明の闇
迎春
芋助
四苦
葡萄によせて
たんぽぽ
噴水と花と
五十七歳
パリの地図
やさしい蛇
冷やっこ
イヨマンテの日に
雑木林
おはよう
屋根裏の少年
ドリム考

山下 延夫…318
山口 和士…319
山崎富士子…322
山田茂里夫…324
山野 一男…326
山村 雄司…328
山本 茂…330
山田 寂雀…332
山田安紀子…333
柳生じゅん子…334
柳生千枝子…335
雪原 立樹…336
世川 心子…338
安田 萱子…340
横堀小夜子…341
横山 照夫…342
吉田 ノブ…344
吉井富美江…346
吉田 博哉…347
若林 光江…350

満ちてくる海の痛み
風の道
飛翔
街角の喫茶店で
足摺岬
——資料——
年刊現代詩集'77-'85 (上) への参加者
個人詩集紹介

脇川 郁也…351
渡辺 洋…352
渡辺 卓爾…354
遠藤 富子…355
丸山 勝久…356

例言

一、本詩集は全国各地の同人誌・詩誌・文芸誌の支持と協力のもとに完成された各地の代表詩人によるアンソロジーで、掲載作品は一九八五年一月から一九八五年六月末日までに制作されたものです。

一、寄せられた一〇〇〇余篇の中から二二二篇を選んで集録しました。作品は原則として作者名（筆名）の五十音順。
略歴は①住所 ②生年 ③所属団体 ④同人誌 ⑤代表詩集 ⑥その他です。

一、同人誌・詩誌・文芸誌の主宰者による推薦作品は原則としてすべて掲載されております。

一、第七回年刊現代詩集新人賞は本詩集及び85年上半期版の中から選出されます。発表は一九八六年三月上旬。本人通知、主要新聞紙上及び芸風ジャーナル等。（入選・賞状、及び賞金総額二〇万円、佳作・賞状及び記念品）

作

品

安部 英康

私はペリシテの辺鄙な村に生れたヒデヤスでヒゼキヤの世は乱れ田畑は出稼ぎ農民で荒れ家はヤコブの咎によって皆放題に荒れ果てた

道連れの家族をどの様にして生存させるのか与えられた人生をどの様に生き抜くのかミカ重い責任をひきずり乍ら独り思いわずろうた

だがミカは遮二無二死の行のなかに組み入れ災いを下し悲しみを与えコトバをあざわらうコトバは何故に水平線上には現われないのか

事はみんなヤコブのトガの故なのであらうかそれともイスラエルの家の罪なのであらうかおオミカよ私を御心のままにさしてください

もはや娘は妊娠し今にもあのヤコブが生まれ天に通じるハシゴの夢をわたくしは見るのだゼベタイの子とアルバヨの子は何故格闘する

何故兄弟が同胞の肉を食い骨を切り刻むのか親のスネを齧りやと一人前に成長したのに脛を憎み悪を愛し福音をどうして伝えないか

娘はアンベの氏族の中で一番かよいのにさ皮をはぎ肉をそぎヤコブが生まれて来るとは何と恐しい事か娘はカナンの子に生れかわる

ミカよ真実をしめして下さいヤコブは本当にカミのいつくしみを受けられるのであらうかそれとも今この娘を燔祭に捧げるべきなのか

半歳まって当歳のマゴを燔祭に捧げるべきかそれとも親子ともどもを犯罪者になすべきかミカは迷っているのだカミよ。お答え下さい

全き物を捧げなければ神は承知をしないのか祭司よ。おまえは何故に黙って見ているのだ主よ。ダビデの子をあわれんで下さいレズよ

マタイの地の塩にアタイの血の汗をそいで
ホセアの神に捧げる娘です
愛哲なパレスチナ
オットマンの回教国家カナンもかなわぬのか

カミとミカとの契約は一体何だ
性書か聖書か
モーセよ申せ
レスビアンは正しいのか
レスよ
レストハウスはあるか
レビよ
レジュメを示せ

けじめのない聖書は祭壇でその全部を氣化し
ヤコブの手紙を氣狂い教徒にバラまいてくれ
レズよ
脂肪はみんなオヌシに帰すべきものだ

レビ記をよむと「わたくしは性であるのだ」
「だから貴方も性でなければならぬのだ」
レビとレズとを此のように解釈してもよいか

アンベは娘のナニをどの様に燔祭すればよい
しては成ない事の一つ犯した時どうするか
娘を売って昭和の初めに戻れと言うのか
ミカ

ヨナの平和論などは遠いむかしに終焉したわ
さあ舟を出せ
核の洪水が来ない中に舟を出せ
早く人民をアララットのいただきにとどけろ

飛翔への夢は墜ちる間際のミカを有頂天にし
落下と同時に陰核は粉碎されて絶無になった
われわれ人民はことごとく滅亡をされるのか

齒ざしりをして言えば言う程核は突っ立った
その陰核を葬る為にミカ書を書かねばならぬ
イザヤやアモスやホセアに負けないようにな

核はミカの知らない間に親のカミが知らぬ中
ユダのニコデモの手の中でどんどん成長する
主は核の手から本当にあがなわれるのか
ミカ

ミカは真実をヤコブに示し慈しみを示された
海から海まで山から山まで陰核は貴方に来る
だからミカよ。いつくしみを人類に示されよ